**「第25回 青少年のための科学の祭典・日立大会」　実施要綱**

**１　青少年のための科学の祭典の趣旨（全国）**

　　　　1992年に始まった「青少年のための科学の祭典」は2024年で33年目を迎えます。科学技術の理解は単なる知識の伝達ではなく、観察・実験等の実体験が効果的だと言われ、とりわけ子どもの頃に受けた感動や体験は原風景となり生涯残ると言われています。

“今、とにかく実体験の場が消えている！科学の魅力を体験できる機会を”という考えから、「青少年のための科学の祭典」は、科学技術の楽しさや面白さ、発見の喜びや感動を一人でも多くの青少年に体験してもらうことを目的としています。創造性と熱意に溢れた、小学校から大学に及ぶ先生方や生徒達が一堂に集まり、各々のユニークな手法でお祭りの出展のように、会場に理科の全分野を網羅した多彩な実験や工作を展開します。来場者は、その中で興味を持ったものに自ら参加し、不思議に思うことを講師に直接たずねたりしながら、科学技術の楽しさや面白さを体験できるのです。

「青少年のための科学の祭典」はこのような貴重な体験を皆で分かち合うことを目指した全国的な活動です。

**科学の祭典** ･･･ 1992年に東京（科学技術館）、名古屋（名古屋市科学館）、大阪（ツイン21MIDタワー）で始まり、2000年の茨城県大会で全ての都道府県を一巡しました。現在、各都道府県では、県大会を契機として誕生した自主的な実行委員会により地方大会が実施さされています。茨城県では、2000年に日立市で二日間にわたって県大会（旧科学技術庁委託大会）が開かれ、その後、県内各地に自主大会の輪が広がりました。現在では、日立市、北茨城市、ひたちなか市、古河市、鹿行地区の５か所で毎年自主大会が開催され、全国でも盛んな県に成長しています。

**２　日立大会の概要**

**（１）日立大会の経緯**

　　　　　　2000年12月、日立市池の川運動公園を会場に開かれた「青少年のための科学の祭典・茨城大会2000」は、国の委託大会としては全国一巡目最後の大会にあたり、過去最大規模で行われ、113件の出展に二日間で、市内全ての小中学生を含む約18,000人の来場者を集めました。各県を巡ってきた文部科学省（旧科学技術庁）の委託大会は、通常県庁所在地で開かれてきましたが、茨城大会は工都日立を背景に日立市での開催になりました。

　　　　　　県大会終了後、主催した実行委員会は、「この科学を楽しむ機運を茨城の子どもたちに定着させるため、この祭典を続けよう。」と、日立市から参加していた県大会実行委員が中心となり、日立大会実行委員会が組織され、2001年以降途絶えることなく毎年開催しています。 (新型コロナウイルスの感染拡大により2021年の第21回大会のみ中止となりました。)

**（２）日立大会の実績**

ア　茨城県初の国の委託大会（日立市にて開催）

　　　（ア）名　称　 「青少年のための科学の祭典・茨城大会2000」

　　　（イ）開催形態　科学技術庁委託大会

　　　（ウ）期　日　　平成１２年１２月９日（土）・１０日（日）

　　　（エ）時　間　　午前９時３０分から午後３時３０分まで（両日とも）

　　　（オ）会　場　　日立市民運動公園中央体育館

　　　（カ）出展数　　１３１ブース（展示を含む）

　　　（キ）来場者数　１７,６９２人（二日間の合計）

　　　イ　自主大会

　　　　　 　平成13年度の第１回大会から令和６年度の第24回大会まで21回の来場者数のべ77,420人

　　　　　　 （詳細は別表。第20回大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のためWEBで開催し、

　　　　　　　 第21回は中止とした。）

**３　今年度開催の概要**

**（１）趣旨**

私たち実行委員会は、子どもたちの健全な成長には、子ども時代の**五感を通した体験活動**が不可欠と考えます。子どもたちは、自然、人、社会等と五感を駆使して直接に関わる行動の中で、様々な事を体験し、学んでいきます。

しかし、近年は、都市化、少子化、電子メディアの普及などにより、これまで身近にあった自然の空間や経験の場、「本物」を見る機会などが少なくなっており、学校・家庭・地域は、人づくりの「原点」である体験活動の機会を、連携して意図的・計画的に創出していこうとしています。

翻れば、私たち大人は、子ども時代の印象的な体験が、その子のその後の興味関心に影響し、左右することを経験的に知っています。これは、時代が変わろうとも変わることはないでしょう。さて、科学の魅力を知る私たちは、心ときめくすばらしい科学体験を子どもたちにプレゼントしようではありませんか。

科学の祭典の会場は、丸一日好奇心あふれる科学空間になります。子どもたちの心には､いつか芽を出す**科学の種が蒔かれます。**

「楽しそう！」から「なぜ？」に。「なぜ？」から「そうか！」に。**「一人でも多くの子どもに科学体験を提供し、一人でも多くの科学好きな子どもを増やす」**を理念に、青少年のための科学の祭典・日立大会は、科学が好きな子どもの裾野を広げて行きます。

**（２）主催等**

　　　ア 主催 青少年のための科学の祭典・日立大会 実行委員会

　　　イ 共催 (公財)日立市民科学文化財団、(公財)日本科学技術振興財団

　　　ウ 後援 ・茨城県教育委員会　・国立大学法人茨城大学　・茨城県高等学校教育研究会理化部

・茨城県高等学校教育研究会生物部　・茨城県高等学校教育研究会地学部

・茨城県教育研究会理科教育研究部　・(株)LuckyFM茨城放送　・(株)茨城新聞社

・(株)ＪＷＡＹ ・日立商工会議所 ・(株)日立製作所　・日立市　・日立市教育委員会

・日立市立小・中学校ＰＴＡ連合会・（一社）茨城県子ども会育成連合会

エ 助成　・子どもゆめ基金　・（公財）東京応化科学技術振興財団

・鈴縫工業(株)「おひさまの恵みプロジェクト」　・げんでんふれあい財団

オ 協賛（令和６年度実績）

 　　　　　・(株)赤羽根　・(株)旭製作所　・飯村機電工業(株)　・石川クリニック

・石川内科ファミリークリニック　・一立学習塾　・茨城トヨペット(株)

・エムビー・サービス日本(株)　・おおたしろクリニック　・(株)オカベ　・小川医院

・小平歯科医院　・かもめ動物病院　・グルコピア日立　・個別スクール好学舎

・(株)サクセス関　・柴原皮膚科　・島田外科医院　・JX金属(株)日立事業所

・(株)三恵技研工業　・㈱白土工務店　・助川電気工業(株) ・北関東マツダ日立店

・大成印刷(株)　・大日本図書(株)　・(株)ティー・エム・ピー　・(有)戸祭電気商会

・中山商事㈱　・(株)日立機械　・日立港病院　・日立厚生医院　・日立綜合防災(株)

・(株)ヒロエンタープライズ　・まさひろ歯科 ・(株)ゆなご教材舎

**（３）実行委員会**

第1回大会以降、25年間にわたり教育界・産業界からの有志によって構成されています。

実行委員長　松本 幸次（元日立市立助川中学校長）

副委員長　　萩谷 薫（元茨城県立高萩清松高等学校長）　　作間 忍（元日立市教育委員会部長）

佐川 和人（日立市教育研究会・理科教育研究部長、日立市立大久保小学校長）

委員　　　　照山 雄三（元助川電気工業㈱技術本部装置第1設計部）

根本 充（㈱日立製作所日立事業所エネルギー総務部庶務課）

宮本 賢伍（茨城大学工学部情報工学科助教）

坂根 俊也（茨城大学工学部電気電子システム工学科助教）

海野 悟（元茨城高等学校教諭）　　斉藤 恭正（日立市教育委員会指導課）

　　　　　　　　　　 大貫 弘敏（日立市立山部小学校長）　　成田 ひとみ（日立市立泉丘中学校常勤講師）

　　　　　　　　　　　　滝 裕子（高萩市立松岡小学校教諭）　　木村 安秀（日立市立特別支援学校教諭）

吉村 徹也（日立市立中里小中学校教諭）　　石川 勉（日立市立駒王中学校教諭）

萩原 真也（日立市立田尻小学校教諭）　　田﨑 嘉子（茨城県県北教育事務所主査）

高柿 勝博（(公財)日立市民科学文化財団科学館事業課長）

事務局　　　國井 篤（元日立市立櫛形小学校副校長）　　高畠 幸浩（日立市立豊浦中学校教諭）

飛田 賀光（日立市女性若者支援課長）　　小林 克敏（日立市教育委員会生涯学習課）

**（４）期　日**令和７年１０月２０日（日）

**（５）時　間**午前９時３０分から午後３時３０分まで

**（６）会　場**日立シビックセンター マーブルホールほか（日立市幸町、JR日立駅前）

**（７）出展数**　　　５０ブース程度

**（８）特別企画**　　「科学研究作品展」

　　　　　　　　　　（夏休み理科自由研究の日立市内優秀作品展示 及び ミニプレゼンテーション）

**（９）入場料**　　　無料

**（10）制作物**

　　　ア　PRチラシ（A４両面）　 約61,000枚（予定）

　　　　　　 …… 水戸市、大洗町、ひたちなか市、東海村、常陸大宮市、那珂市、

　　　　　　　　　常陸太田市、日立市、高萩市、北茨城市、大子町、福島県いわき市

　　　　　　　　　（12市町村）の小中学生に配布

　　　イ　実験解説集（A4判、約60ページ）　 1,000部

 …… 出展者及び来場者に無料配布

以 上

**（別表）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 期　日 | 出 展 数 | 来場者数 | 会　場 |
| ﾏｰﾌﾞﾙﾎｰﾙ | ｼﾋﾞｯｸｾﾝﾀｰ | 新都市広場 |
| 第1回 | 平成14年 2月 9日（土） | 40ブース | 3,246人 | ○ |  | ○ |
| 第２回 | 平成15年 1月11日（土） | 39ブース | 4,314人 | ○ |  | ○ |
| 第３回 | 平成15年12月 7日（日） | 60ブース | 4,107人 | ○ | ギャラリー | ○ |
| 第４回 | 平成16年11月 7日（日） | 56ブース | 3,800人 | ○ | ギャラリー | ○ |
| 第５回 | 平成17年12月 4日（日） | 55ブース | 2,122人 | ○ |  |  |
| 第６回 | 平成18年11月12日（日） | 31ブース | 2,336人 | ○ |  |  |
| 第７回 | 平成19年11月 4日（日） | 44ブース | 4,188人 | ○ | ギャラリー |  |
| 第８回 | 平成20年12月 7日（日） | 44ブース | 4,194人 | ○ |  | ○ |
| 第９回 | 平成21年11月22日（日） | 43ブース | 2,476人 | ○ |  | ○ |
| 第10回 | 平成22年11月28日（日） | 46ブース | 3,470人 | ○ |  | ○ |
| 第11回 | 平成23年11月13日（日） | 46ブース | 2,810人 | ○ |  | ○ |
| 第12回 | 平成24年12月15日（日） | 24ブース |  403人 | 日立市教育プラザ |
| 第13回 | 平成25年12月 1日（日） | 45ブース | 4,980人 | ○ | ギャラリー | ○ |
| 第14回 | 平成26年11月30日（日） | 56ブース | 5,120人 | ○ | ギャラリー | ○ |
| 第15回 | 平成27年11月29日（日） | 50ブース | 5,812人 | ○ | アトリウム | ○ |
| サイエンスセミナー（２講座） |
| 第16回 | 平成28年11月27日（日） | 54ブース | 2,995人 | ○ | ギャラリー | ○ |
| 特別講演会　46人 |
| 第17回 | 平成29年11月26日（日） | 52ブース | 3,033人 | ○ | 科学館、ギャラリー | ○ |
| 特別講演会　68人 |
| 第18回 | 平成30年12月2日（日） | 60ブース | 3,912人 | ○ | 科学館、ギャラリー | ○ |
| みらい実験教室 35人天文講演会 131人 |
| 第19回 | 令和元年12月1日（日） | 55ブース | 4,124人 | ○ | 科学館、ギャラリーアトリウム | ○ |
| みらい実験教室Ⅰ、Ⅱ 61人科学研究作品展 50作品　　　同　　　プレゼン13人 |
| 第20回 | 【 **WEB開催** 】　令和2年12月上旬～ | ・日立大会HPの立ち上げ　・公式YouTubeチャンネル（ｵﾘｼﾞﾅﾙ実験工作動画20本）　 ・ﾍﾟｰﾊﾟｰｸﾗﾌﾄ付きHP紹介チラシの配布 |
| 第21回 | **中　止** | （ 新型コロナウイルス感染拡大のため中止 ） |
| 第22回 | 令和4年10月23日（日） | 45ブース | 3,367人 | ○ | 科学館、ギャラリーアトリウム | ○ |
| 科学講演会 23人科学研究作品展 52作品　　　同　　　プレゼン26人 |
| 第23回 | 令和5年10月29日（日） | 50ブース | 3,024人 | ○ | 科学館、ギャラリーアトリウム | ○ |
| 科学研究作品展 52作品　　 同　　　プレゼン17人ひたちkidsﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞｺﾝﾃｽﾄ　　応募25人、最終審査10人 |
| 第24回 | 令和６年10月20日（日） | 50ブース | 3,233人 | ○ | 科学館、ギャラリーアトリウム | ○ |
| 科学研究作品展 54作品　　 同　　　プレゼン23人 |
|  | **延べ 77,420人** （第20回及び第21回を除く） |

|  |
| --- |
|  |

　　　　　　※ 時間は、いずれも午前9時30分から午後3時30分まで